

# 手をたずさえて

“富中PRIDE”～自信と誇り～

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成31年2月20日(水)発行  
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

## 残された期間『万全を期す』…『まだ2週間もある!』 128名の3年生が県立Ⅱ期選抜に挑む!

県立高校Ⅱ期選抜まであと約2週間となりました。128名の生徒達がⅡ期選抜に挑みます。『万全を期す』という言葉があります。「ぬかりのないように準備すること」「少しの手落ちもないようにすること」という意味です。「もう2週間しかない」と考えるのか、「まだ2週間もある」と考えるのか…考え方はいろいろあると思いますが、残されたこの2週間という期間に『万全を期す』ことが重要です。19日(火)の卒業式練習の後、時間をもらって、社会科の学習を例に『入試直前対策』の話をしました。

「直前に見えていた用語が出題されるなど、社会や理科は直前の学習が点数に結び付く場合がよくある。(だからといって、国・数・英を手を抜くということではない。)」、「直前の学習としては、今までやってきた問題集やテキスト等を再度確認する。今までの実力テストや定期テストをやり直すことも効果的である。」「教科書の章のまとめの“学習をふりかえって”のページを学習の整理に活用する。」など、入試の出題傾向から直前の学習方法について話をしました。県立Ⅰ期内定者や私立高校、専修学校等の合格者も県立高校入試問題を解いてほしいと思います。3月8日(金)の新聞(朝刊)に掲載されます。

また、生活のリズムを整え(早起きの習慣化)、体調管理にも十分注意してください。そして、あたり前のことですが、試験当日は、「できる問題から解く」、「時間配分を考える(時計を常に見る)」、「問題をよく読んで『何を』、『何で』答えるかをはっきりさせてから答えを書く。丁寧な字で書く」、何といっても「最後まで決してあきらめないこと」が大切です。「まだ2週間もある」というポジティブな考えに立って、1日1日を大事に刻んでいこう!



## 『特選』・『吾峰会賞』(特別賞)受賞! 郡山市公立学校教職員研究物展

2月13日(水)郡山公会堂にて「郡山市公立学校教職員研究物展表彰式」が開催されました。本校教職員の共同研究「主体的に考え、深く学び続ける生徒の育成(2年次)～思考ツールの活用と対話的学びを通して～」で、今年度は『特選』と特別賞の最高賞である『吾峰会賞』(福島大学教育学部・人間発達文化学類同窓吾峰会から受ける賞)を受賞しました。昨年度の特別賞『中学校長会長賞』受賞に続くものです。

今、本校では、小集団による対話的な学び合い活動が様々な教科で実施されています。

生徒達も自然な形で自分の考えを相互交流し、考えを広げたり深めたりしています。“学び合い”が成立しています。それらの実践の積み重ねが確かな学力に繋がっていくと信じています。決して背伸びしていない普段の実践であり、全ての教科で実践している点などが評価されました。表彰式では、研修主任の齋藤司先生が学校を代表して表彰を受けました。今後も生徒の頑張りには負けないよう、我々教員も確かな学力の育成をめざし、授業づくりに向けた研修を深めていきたいと考えています。



各教科で行われている学び合い活動



# 本校卓球部の 記事掲載!

スポーツマガジン  
『ジュニアアスリート郡山』

全国初の  
小中学生を  
取り上げる  
地域密着フ  
リーマガジ  
ン『ジュニ  
アアスリ  
ト郡山』の  
「チーム紹  
介」に本校卓球部の記事が掲載  
されました!



経験を生かす力。

他の学校やチームは1ページのところ、本校卓球部は2ページにわたっての掲載です。今年度の市中体連総合大会団体戦において、男子はベスト8に入り、女子は第2位となり、その後も勝ち進み、県大会でも第3位で東北大会出場を果たしました。実績を上げていることが評価され取材に繋がりました。現在は、先輩達の背中を追う新チームで日々練習に励んでいます。技術の向上はもちろんですが、人間としての成長も期待します。

## 保護者の皆様へ 授業参観へのご参加 ありがとうございました

2月15日(金)の今年度最後の授業参観及び学年懇談会へのご参加ありがとうございました。真剣に授業を受ける生徒の姿はいかがだったでしょうか。生徒の成長ぶりを感じられたことと思います。引き続きご協力、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



1年体育 ダンスの授業



郡山市立富田中学校卓球部

## 憧れの舞台、 次は自分たちの手で。

昨年の中体連で団体戦東北大会出場という素晴らしい成績を取った富田中学校卓球部。先輩たちの背中を追う新チームの今に迫る。



富田中学校卓球部は男子25名、女子17名総勢42名のもとでも人数が多い部活だ。男子は昨年の中体連ではベスト8。ベスト7から行ける県大会まであと一步の所で涙を飲んだ。新チームのキャプテンは「中体連はとてもしんどい思い出でした。今年こそ県大会まで進みたいです。人数が多い部活が新キャプテンとしてみんなを引っ張っていきたくて」と話した。女子は市大会を勝ち進み県大会で3位。念願の東北大会出場を果たした。女子新キャプテンに話を聞いた。「東北大会出場はとて嬉しかったのですが強いチームがたくさんいて、ただ出場するのはなくそこで戦えるようにならないといけないと思いました。東北大会の壁を強く感じました。先輩方が強かったので新チームではしっかり引き継いでいきたいと思ったり、負けたくないとも思っています。まずは県大会に出場してしっかり戦えるようにしたいと思っています」と話した。男女新キャプテンともにしっかりと目標を持ち、部員を引っ張っていく高い意識を感じさせた。

部員たちの指導に当たるのは顧問の伊藤真一先生と顧問の鈴木美紀先生だ。「部活動はただ強くなるだけではなく人づくりの場でもあります。マナー、挨拶、礼儀と、去年のメンバーから今年のメンバーへと引き継がれ

Jr.Athlete Koriyama 6

目標を持って取り組む環境ができています。新チームの特徴は、絶対的エースがない分お互いに切磋琢磨しています。みんなですべて運んでいくから試合も楽しいんです」と伊藤先生。鈴木先生は「先輩たちの活躍を見て自分たちも頑張りたいと強く思っている生徒たちです。伊藤先生は、いろいろな道具を使う工夫された練習や系統立てたメニューなど、きめ細やかな指導で強くなってきているのだと思います」と話した。この子たち、負けず嫌いなところもあって、試合で負けたと泣くんですよ」とも。

今後の試合は1月の中体連県大会上位16チームで戦う福島県選抜中学新人卓球大会だ。上位のチームが集まる大会だけに気合も入る。

「スポーツをやるからには成功体験を増やしてあげたい。試合に勝った、技ができたという喜びが自信になって勉強も伸び、大人になってもその経験が生きてくるはずですよ」と伊藤先生は子どもたちの成長に期待を込める。中学生になって初心者から卓球を始めた子どもたちが、どんどん成長して東北大会の場に立っている姿に一番驚いたのは他ならぬ伊藤先生だそう。

先輩たちが引っ張ってくれた夢舞台。次は自分たちで掴むために努力を重ねることだろう。頑張れ、富田中卓球部!



〈フォトライター 橋本 拓子〉